



講師 榛原総合病院
副看護部長 名波まり子氏

ケアとしての死化粧

4西 伊藤一子

私は看護師として今までに何人もの死を看取り、死後の処置に携わってきました。その時の思いは「見た目をきれいにしておきたい」という事でした。

今回のお話を聞き、エンゼルメイクの持つ意味の深さを知りました。



“家族の見守る中で...” H16.12.8

持ち寄りのメイク道具ではなく、専用のメイク道具を使う事や、その種類の豊富さに驚きました。そして、私達がするのと同じやり方でメイクをする事こそ、人として尊重する事につながる、これは処置ではなく、一つのケアであるという事が分かりました。また、家族が見守る中、家族と共にエンゼルメイクをする事が亡くなられた方への家族の思いが明らかになり、家族の求めているその人らしさが表れた身支度ができる。家族が死を受け入れるための準備の時として、その事が大切であるという事を感じました。

そのためには家族に見せられるケアでなくてはなりません。それには物品の準備も必要ですが、何よりこれに携わる私達の意識が変わることにあると思います。私はぜひやれるところから取り組んでみたいと思いました。みなさんはどう思われましか。

トピックス

東海北陸地区 看護研究発表

『全身麻酔での手術中の患者を待つ家族が抱えている、不安やストレス』についての実態調査』

2西 名倉和子・三枝朗子

5時間かけて富山駅に着く。駅を降りると遠くに雪化粧した南アルプスの山々が見えた。会場は国会議事堂の様に大きく見え、大変緊張した。他施設の発表はとても新鮮だった。



富山城跡公園にて 11月16・17日

自治体病院学会 研究発表 in 広島

H16.11月11・12日

『小児の点滴中におけるトラブルと発生要因の実態調査』

3東 澤万記子

広島へは、高校の修学旅行以来久しぶりに行きました。台風により倒壊した厳島神社の神殿も修復作業が進む中、とてもきれいに色づいたもみじの紅葉をみて心が和みました。

緊張して発表後の“ホッ”と一時

おいしかった!!

